

# 福島への思いと将来の夢を抱いて、成人式に出席

## ●●●●●●●●●● 福島県出身の板倉さん ●●●●●●●●●●

沖縄キリスト教短期大学の2年生、板倉良太さん(字上原)は福島県南相馬市出身。昨年3月11日に発生した東日本大震災で実家が被災しました。実家は福島第1原発から10km圏内にあるため、あの日以来実家に足を踏み入れていません。

そんな板倉さんが、1月8日に開催された平成24年西原町成人式に参加しました。地元でもない成人式の式典。当初は出席するつもりがなかったのですが「沖縄にいる叔母に、『一生に一度の記念だし、参加したら』と言われて。」と、二十歳の区切り、節目として式典に足を運びました。

「自分の環境、人生が変わりました。」と震災を振り返り、「工業高校に通っていて原発のことを勉強していたので、今地元で何が起きているのか少しは理解できる。その分余計にこれからが不安。高校のときは、事故なんて絶対に起きないと学んだけど。」と、故郷への思いを語りました。

去年のお正月は南相馬市の実家で過ごしたそうで、1年後、こんな形で成人を迎えるとは夢にも思わなかったことでしょう。「震災が、原発事故がなかったら、地元の成人式に行くつもりでした。」地元の成人式は、福島県内3ヶ所で行われ

ますが、「いろいろ大変だから、帰らないことに決めました。地元の友達にも会いたいけど、自分で帰らないと決めたので年末年始も沖縄で過ごしました。」と語りました。

20歳の誕生日が目の前の板倉さん。これからの抱負を聞くと「学校に呼びかけてボランティアや被災地支援に取り組んでいる。実家でお米を作っていたけど、今は農業ができる状況じゃない。福島の農家が沖縄で米作りをできるように、活動しています。」と語りました。4月からは沖縄キリスト教学院大学に編入することが決まっており、将来は、「ボランティアに興味を持っていて、人の役に立てる仕事を残りの大学2年間で探したい。」と夢を力強く語ってくれました。



# 昇の竜のどどど。 2012年を飛躍の年に！ 町出身の上原慎也選手、J1の舞台で活躍を誓う



西原町字幸地出身で、プロサッカーチームのコンサドーレ札幌に所属する上原慎也選手が12月27日に町役場を訪れ、新しいシーズンに向けて抱負を語りました。

上原選手は西原中、西原高、沖縄大を経て2009年に札幌に入団。昨シーズンは25試合に出場して2得点し、その得点はいずれも、勝利を決める重要なゴールになるなどの活躍でした。「主に途中出場だったが、4試合スタメンで出場でき、自分の課題が見つかった。長い時間集中してプレーできるようにしたい。」と去ったシーズンを振り返りました。

所属するコンサドーレ札幌はJ2(Jリーグ2部)に所属した昨年、3位に入り、2012年シーズンのJ1(同1部)への昇格が決定しています。始めてJ1で過ごすシーズンを前に上原選手は「チー

ムとしてできるだけ上位を目指し、J1残留を果たしたい。個人的には長所のヘディングとスピードを活かして、J1相手にどれだけ通用するか楽しみ。通用できるようにしっかり練習して成長したい。」と抱負を述べました。また、去った12月に長男が誕生、父親になったことを受け「家族が増えたので、一層がんばりたい。」と力強く語り、「チームの先輩から『J1を経験するのはサッカー選手としてぜんぜん違う』と聞いている。今から楽しみ。」と、新シーズンを心待ちにしていました。

上間町長は「西原出身のプロサッカー選手として期待している。次のシーズンはJ1でのプレーが見られるので、これまでより一層、応援していきたい。」とエールを送りました。

プロサッカーリーグJ1は3月10日から開幕します。上原選手のJ1での挑戦を応援しましょう！

### ★上原選手から、西原の子どもたちにメッセージ★

小学校から高校まで西原の学校でサッカーをしてきて、監督やコーチのみならずの教えを受けてしっかり練習してきた。そのおかげでプロサッカー選手になることができました。努力あることで目標が見えてきます。西原でサッカーや他のスポーツをしているみんなは、監督やコーチの言うことをしっかり聞いて、がんばってほしい。今年も応援よろしくお願ひします！

## 今年も地域の安心・安全を守ります！ 東部消防組合出初式



今年で35回目を迎える東部消防組合の出初式が1月6日、同組合構内で開催されました。同組合の管理者、城間俊安南風原町長は式辞で「各種災害から住民の生活、安全を守るため、今後も消防体制の充実を目指す。」と決意を述べました。

また、同組合消防団西原分団の島袋智之副分団長と神谷厚仁団員が、勤続10年の永年勤続章を受けました。展示訓練では、事故車からの救助訓練と放水訓練を行い、来場者に日ごろの成果を披露しました。

新春の  
話題  
④

## お餅をついて、「今年1年健康に！」



町赤十字奉仕団(城間富子委員長)が主催する恒例の「ふれあい餅つき大会」が1月5日、町役場玄関前で開催されました。会に先立ち、城間委員長が「今年も1年、協力して奉仕団の活動をがんばりましょう」とあいさつしました。

餅つき大会では20kgのもち米が用意され、「NPO法人さわふじ地域活動支援センターさん」の利用者を招き、代わる代わる餅つきに挑戦。つきたてのお餅はぜんざいなどにして、来庁者などに振る舞われました。

新春の  
話題  
③

## 今年1年の西原町の発展を誓う 平成24年新春の集い



「平成24年西原町新春の集い」が1月4日、エリスリーナ西原ヒルズガーデンで開催され、多くの町内企業や町民が参加、新しい年を祝うとともに、交流を深めました。

新春のあいさつで上間町長は「新沖縄振興計画、沖縄21世紀ビジョンの策定や、沖縄振興一括交付金が予算化され、地方自治体は地方分権時代の実力が試される。」と展望を語り、「本土復帰から40年の節目の年。平和な沖縄のグランドデザインを描き、子どもたちに輝かしい未来を残すために努力していきたい。」と決意を述べました。

新春の  
話題  
②

## 新春の首里城で小波津の獅子舞と棒術を披露



首里城公園で正月の恒例行事として開催される「首里城公園新春の宴」に、小波津伝統芸能保存会が出演し、地域に伝わる獅子舞と棒術を演じました。同保存会は、1月1日に下之御庭(しちやぬうな)で催された、地域に伝わる民俗芸能を披露する「琉球芸能の宴」の第2部と第4部に出演。華やかな獅子の舞と力強い棒術の演武を披露し、「新春の宴」を彩りました。

新春の  
話題  
①